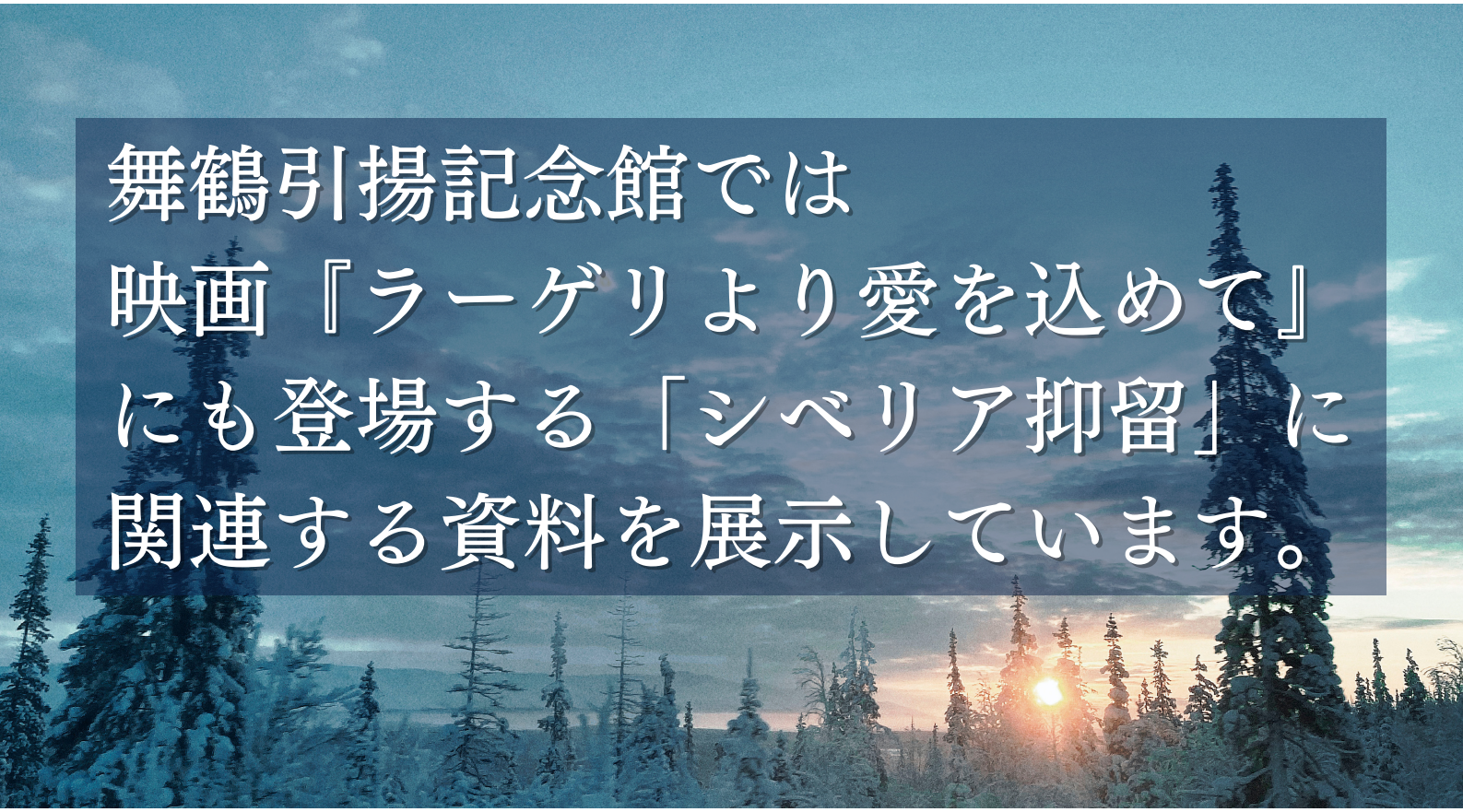
映画『ラーゲリより愛を込めて』の世界



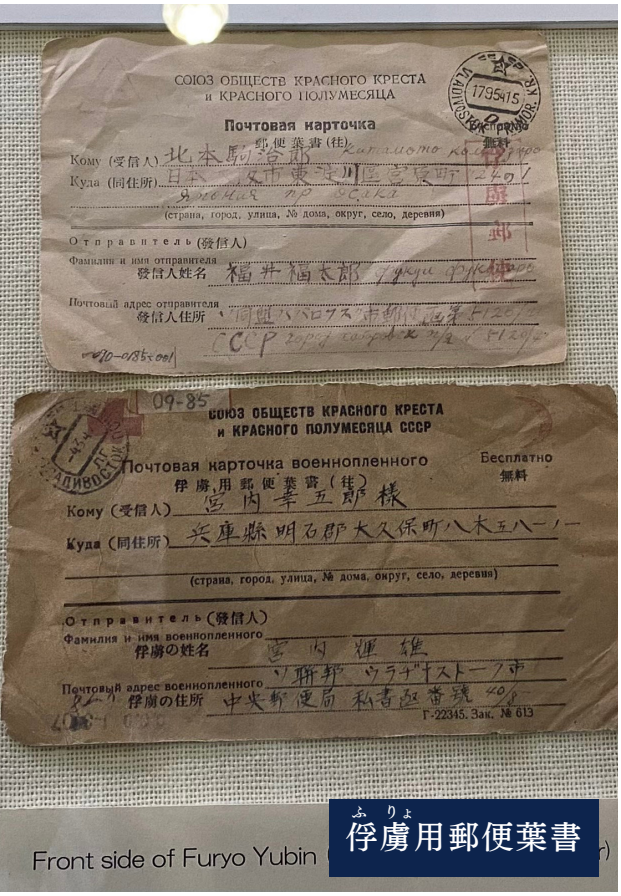
**舞鶴引揚記念館では
映画『ラーゲリより愛を込めて』
にも登場する「シベリア抑留」に
関連する資料を展示しています。**

作品のご紹介

第二次大戦後の1945年・シベリア。死に逝くものが続出する地獄の強制収容所（ラーゲリ）に、その男・山本幡男は居た。身に覚えのないスパイ容疑でラーゲリに収容された山本は、日本にいる妻・モジミや4人の子どもと交わした再開の約束を胸に、一緒に過ごせる日々が訪れることを信じ、耐えた。
劣悪な環境下では、日本人同士の争いも絶えなかった。戦争で心の傷を負う者、旧日本軍の階級を振りかざし続けるもの、過酷な状況下で変わり果ててしまう者…。山本は彼らを分け隔てなく励まし続けた。更に、青年たちは学問を教え、希望を唱え続けた。そんな彼の仲間想いの行動と信念は、凍っていた捕虜たちの心を次第に溶かしていく。
…8年が経ち、山本に妻からの葉書が届く。厳しい検閲をくぐり抜けたその葉書には「あなたの帰りを待っています」と。山本は涙を流さずにはいられなかった。
誰もが帰国（ダモイ）の日が近づいていると感じていたが、その頃には彼の体は病魔に侵されていた…。体はみるみる衰えていくが、愛する妻との再会を決してあきらめない山本。そんな彼を慕うラーゲリの仲間たちは、厳しい監視下にありながらも、山本の想いを叶えようと思いもよらぬ行動に出る。そしてモジミに訪れる奇跡とはー

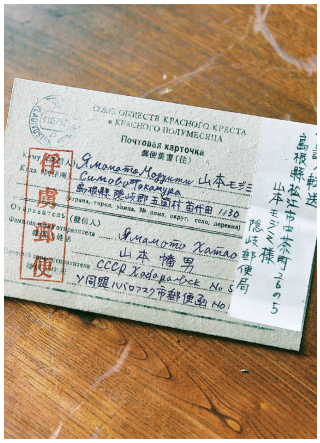
つらい抑留生活の中でも忘れなかった
「**希望**」や「**未来**」そして「**記憶**」
その大切さを後世に伝え続けています。

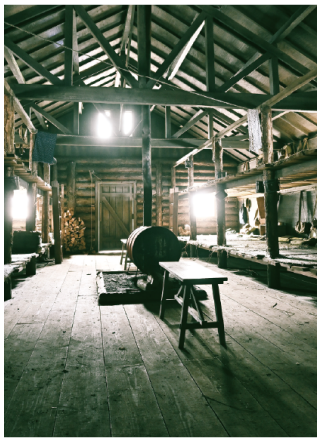
舞鶴引揚記念館の展示資料のご紹介



Front side of Furyo Yubin

俘虜用郵便葉書





抑留生活体験室

抑留者自作の麻雀牌

抑留者自作の
煙草入れ

強制収容所（ラーゲリ）

抑留者の心の支
えとなったクロ

舞鶴引揚記念館 蔵

舞鶴フィルムコミッション・舞鶴引揚記念館